

9 1. <世界を救うのは植物ですよ！>

地球温暖化に関する国際的な取り決めである京都議定書では、バイオマスはカーボンニュートラルであるとされました。1997年「気候変動枠組条約第3回締結国会議（COP3）」で採択されました。会議はCOP15まで来ています。カーボンニュートラルを直訳すると炭素中立って言葉になるのかな、解釈が難しい言葉です。炭素ではなく二酸化炭素って言うほうが解かりやすいと思います。すなわち、二酸化炭素の増減がないと言う理解です。

ここで、主役となるのが植物です。生き物は水と有機物から成り立っています。もちろん人間も生き物の一つです。この有機物の半分が炭素でほとんどが植物由来です。植物は太陽エネルギーを活用して二酸化炭素を有機物に変える。この有機物は人間等によって二酸化炭素に分解する。この連鎖を考えますと植物の再生産が保証されれば二酸化炭素は増えないと言うロジックです。中立を保つためには植物の育成が重要な課題となります。

それでは、化石燃料はどうでしょう。化石燃料も太古のバイオマスを原料として生成されたものとされています。でもその再生産の時間が何億年も待っていないでしょう。

主役となる植物を育てようじゃありませんか。

<総括主任研究員 照沼 誠>

※ J S 技術開発情報メール No. 99 号 (2010/2/4) に掲載